

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.196

2018年10月29日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-10-8

## 学校施設・設備を見学して 学校事務実践講座

西脇市の小学校で、学校事務実践講座を開催しました。学校事務職員の標準職務に示されている「学校施設等環境を整備、維持するための領域」について、実際に学校施設・設備を見学し、維持管理等施設に関する知識の習得と学校事務職員としてのかかわり方を考えました。

会場校は、木造校舎3棟が兵庫県景観形成重要建造物に指定されており、「日本の美しい小学校」にも選ばれ、「火垂るの墓」などの映画のロケ地にもなっています。現在は、木造校舎2棟目が改修されています。午前の実践発表では、施設・設備に係る動きにかかわってきた学校事務職員から、木造校舎の保存改修、管理備品の選定や引越作業等についての経緯や、苦労した点について話を聞きました。

学校施設の特徴として、約80年前に建てられた歴史的・文化的に価値のある木造校舎をベースに改修され、校舎内には美しい漆喰の白い壁、LED照明や空調、備え付けプロジェクタ、可動式黒板など「古き良き伝統技術」と「最新技術」が融合している点が挙げられます。

学校事務職員として、木造校舎の保存改修に参画するにあたっては、歴史と伝統ある校舎を引き継ぐ責任の重みを感じながらも、事務職員の目線で積極的に管理職や担当部局等と意見を交換し、すべての教職員のかかわりのもとで準備をすすめてきたそうです。また、市内の事務職員の意見も取り入れるため、改修によって様子が変わるたびに、事務研修会の会場とし、校舎見学をおこないました。また、管理備品の選定にあたっては、民間業者の提案のもと各部屋の備品を検討し、特に職員室内は最新のオフィスをめざし、フリーアドレス（一人ひとりを特定しない）の机を置くことに決められたそうです。新校舎になり、子どもたちがより快適に学校生活を送ることができるようになる一方で、不審者対策や児童への清掃指導、学校見学者が増えるための対策等について課題があると報告されました。



施設見学を終えた後、参加者は4つのグループに分かれて、班別協議をおこないました。「子どもたちが通いたくなる」という子ども・保護者・地域の視点、「指導がしやすい」という教職員の視点、「維持・管理しやすい」という学校事務職員の視点を出し合い、「子どもたちにとって安全で快適な学校生活をめざして」を主な討議の柱とし、自分の勤務校と比べながら意見を交流しました。協力研究所員からは「地方の財政状況は大変厳しいが、事務職員として主体的に安心・安全の校舎を維持管理していくことは、学校事務をつかさどることにつながる」との話がありました。最後は、標準職務通知の学校施設等環境を整備、推進するための領域について実践をすすめることを確認し、実践講座を終えました。